



1 改訂の趣旨及び要点

改訂の基本的な考え方

今回の改訂では、次の考え方を踏まえて、改善・充実が図られました。

- ・ **探究的な学習過程を一層重視**し、各教科等で育成する資質・能力を相互に関連付け、実社会・実生活において活用できるものとするとともに、各教科を越えた学習の基盤となる資質・能力を育成する。

目標の構成の改善

総合的な学習の時間で育成を目指す資質・能力（下線部）を三つの柱で整理しました。目標を設定するに当たっては、各学校における教育目標を踏まえて設定します。

探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

知識・技能の習得

(1) 探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究的な学習のよさを理解するようにする。

思考力・判断力・表現力等の育成

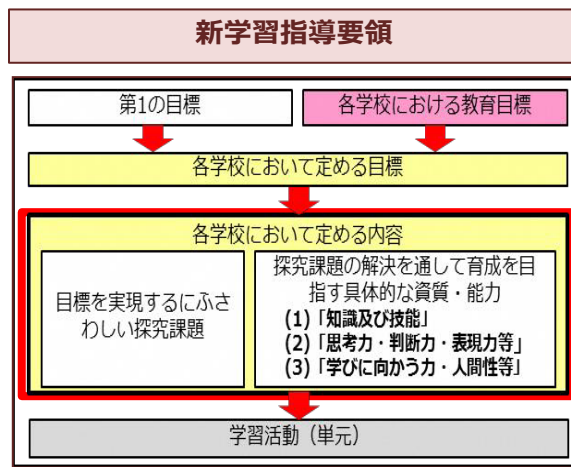
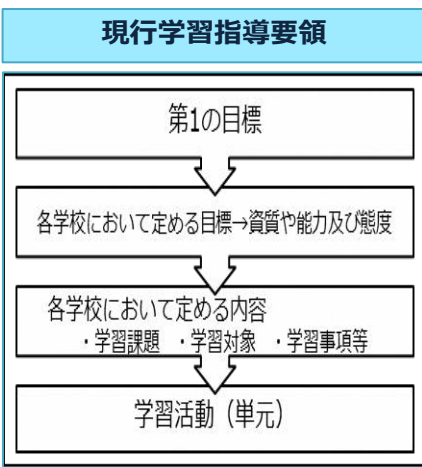
(2) 実生活や実社会の中から問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。

学びに向かう力・人間性等の涵養

(3) 探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする態度を養う。

内容の構成の改善

各学校は総合的な学習の時間の**目標を実現するにふさわしい探究課題**を設定するとともに、**探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力**を設定します。



※ **目標を実現するにふさわしい探究課題**については、学校の実態に応じ、次の三つの課題を踏まえて設定するように例示しています。

国際理解、情報、環境、福祉・健康などの現代的な諸課題に対応する横断的・総合的な課題

地域の人々の暮らし、伝統と文化など地域や学校の特色に応じた課題

児童の興味・関心に基づく課題

学習内容の改善・充実

今回の改訂では、これまでの「学習対象」を「探究課題」と示し、探究することを通して学ぶという学習過程が重要であることを明確にしました。

○各教科等との関連

探究的な学習の中で、各教科等で育成する資質・能力を相互に関連付け、実社会・実生活の中で総合的に活用できるものとなるよう改善する。

○全ての学習の基盤となる資質・能力の育成

課題を探究する中で、協働して課題を解決しようとする学習活動や、言語により分析し、まとめたり表現したりする活動、コンピュータ等を活用して、情報を収集・整理・発信する活動を行うようにする。

○体験を伴う活動等の重視

自然体験やボランティア活動など、地域の教材や学習環境を積極的に取り入れる活動等を重視する。

○プログラミング的思考の育成

プログラミングを体験しながら論理的思考力を身に付ける学習活動を行う場合には、探究的な学習の過程に適切に位置付くようにする。

2 小学校総合的な学習の時間における授業づくりのポイント

Point1 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善をしましょう。

総合的な学習の時間において「主体的・対話的で深い学び」の視点による授業改善を重視することは、探究的な学習の過程をより一層質的に高めていくことにつながります。

〈主体的な学びの視点〉

- ・課題設定については、児童が自分の事として学びを進められるように実社会や実生活の問題を取り上げる。
- ・振り返りについては、文章やレポートに書き表したり、口頭で報告したりすることなどを行う。

〈対話的な学びの視点〉

- ・身に付けた知識や技能を使って相手に説明したり、他者からの多様な情報を収集したり、情報を可視化・操作化したりしながら、他者とともに課題解決に向けて活動する場を設定する。

〈深い学びの視点〉

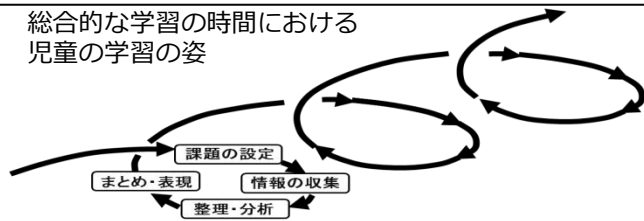
- ・探究的な学習（Point2を参照）の中で、「情報収集」や「整理・分析」「まとめ・表現」をする際に、教科で身に付けた資質・能力をどのように活用するか、児童が考える場面を設定する。

Point2 探究的な学習となる単元構想をしましょう。

総合的な学習の時間における学習では、「①課題の設定→②情報の収集→③整理・分析→④まとめ・表現」の探究のプロセスが示されており、右図のように学習活動を発展的に繰り返していくことが大切です。

次に、それぞれのプロセスごとの学習活動のイメージを、身近な川を対象にした活動を例に紹介します。

総合的な学習の時間における
児童の学習の姿



①【課題の設定】

体験を伴う活動などを通して、課題を設定し課題意識をもつ

例) 実際の川を目で見て、肌で触れることにより、川の現実の姿と理想的な川のイメージのずれなどから、身近な川の環境問題に目を向ける。

②【情報の収集】

必要な情報を取り出したり収集したりする

例) 川に生息する水生生物を調べたり、バックテストなどで水質調査をしたりする。各教科で身に付けた資質・能力を発揮するため、必要に応じ教師が意図的に資料を提示することもある。

③【整理・分析】

収集した情報を、整理したり分析したりして思考する

例) 水生生物の分布の様子を地図上に整理したり、水質の変化をグラフ化したりするなど、個別の情報を種類ごとに分けたり、細分化して因果関係を導き出したりする。

④【まとめ・表現】

気付きや発見、自分の考えなどをまとめ、判断し、表現する

例) 身近な川における環境の問題を考えながら、自らの日頃の行動の在り方、身近な環境と共生する方法について考え、新聞やポスター、プレゼンテーションなどで論理的に表現する。

こうした探究の過程は、①～④が順序よく繰り返されるわけではなく、順番が前後したり、一つの活動の中に複数のプロセスが一体化して同時に行われたりする場合もあります。

Point3 探究的な学習の過程を質的に高めていくことを心がけましょう。

探究的な学習を質的に高めるために次のことに配慮します。

①他者と協働して課題を解決しようとする学習活動を行う。

- ・他者を、共に学習を進めるグループだけでなく、学級全体や他の学級あるいは学校全体、地域の人々、専門家など幅広く捉えておく。
- ・グループでより良い考えを導き出すことに加えて、一人一人がどのような資質・能力を身に付けるかということを重視して学習活動を設定する。

②言語により分析し、まとめたり表現したりする学習活動を行う。

- ・探究的な学習活動の過程において、体験したことや収集した情報を、言語で分析したりまとめたりする。
- ・報告の場として、参加者全員の前で行うプレゼンテーションや目の前の相手に個別に行うポスターセッションなど、多様な形式を目的に応じて設定する。

③「考えるための技法」を活用する。

- ・①、②の学習活動において、「比較する」「分類する」「関連付ける」などの処理方法を、様々な場面で具体的に使えるようにする。



1 改訂の趣旨及び要点

改訂の基本的な考え方

今回の改訂では、次の考え方を踏まえて、改善・充実が図られました。

- ・ **探究的な学習過程を一層重視**し、各教科等で育成する資質・能力を相互に関連付け、実社会・実生活において活用できるものとするとともに、各教科等を越えた学習の基盤となる資質・能力を育成する。

目標の構成の改善

総合的な学習の時間で育成を目指す資質・能力（下線部）を三つの柱で整理しました。目標を設定するに当たっては、各学校における教育目標を踏まえて設定します。

探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

知識・技能の習得

(1) 探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究的な学習のよさを理解するようになる。

思考力・判断力・表現力等の育成

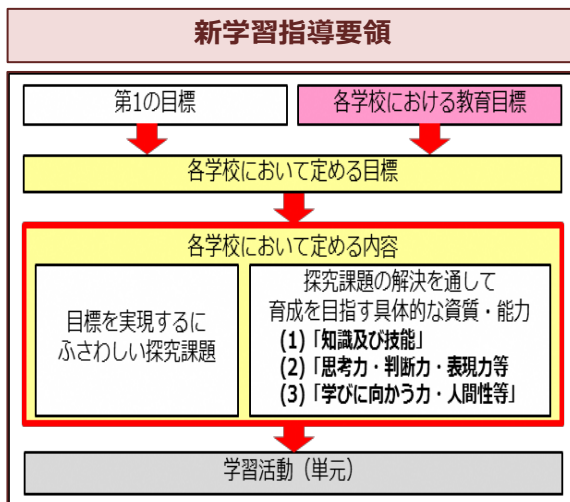
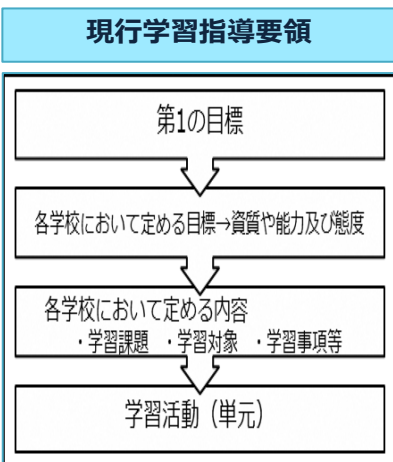
(2) 実生活や実社会の中から問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。

学びに向かう力・人間性等の涵養

(3) 探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする態度を養う。

内容の構成の改善

各学校は総合的な学習の時間の**目標を実現するにふさわしい探究課題**を設定するとともに、**探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力**を設定します。



目標を実現するにふさわしい探究課題については、学校の実態に応じ、次の四つの課題を踏まえて設定するように例示しています。

- 国際理解、情報、環境、福祉・健康などの現代的な諸課題に対応する横断的・総合的な課題
- 地域や学校の特色に応じた課題
- 生徒の興味・関心に基づく課題
- 職業や自己の将来に関する課題 ※

※) 義務教育の最終段階にある中学生にとって、切実かつ現実的な課題であり、小学校では例示していません。

学習内容の改善・充実

今回の改訂では、これまでの「学習対象」を「探究課題」と示し、探究することを通して学ぶという学習過程が重要であることを明確にしました。

○各教科等との関連

探究的な学習の中で、各教科等で育成する資質・能力を相互に関連付け、実社会・実生活の中で総合的に活用できるものとなるよう改善する。

○全ての学習の基盤となる資質・能力の育成

教科等を越えた全ての学習の基盤となる資質・能力を育成するため、課題を探究する中で、協働して課題を解決しようとする学習活動や、言語により分析し、まとめたり表現したりする学習活動、コンピュータ等を活用して、情報を収集・整理・発信する学習活動を行うようにする。

○体験を伴う活動等の重視

自然体験やボランティア活動などの体験を伴う活動、地域の教材や学習環境を積極的に取り入れること等は引き続き重視する。

2 中学校総合的な学習の時間における授業づくりのポイント

Point1 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善をしましょう。

総合的な学習の時間において「主体的・対話的で深い学び」の視点による授業改善を重視することは、探究的な学習の過程をより一層質的に高めていくことです。

〈主体的な学びの視点〉

- ・課題設定については、生徒が自分の事として学びを進められるように実社会や実生活の問題を取り上げる。
- ・振り返りについては、文章やレポートに書き表したり、口頭で報告したりすることなどを行う。

〈対話的な学びの視点〉

- ・身に付けた知識や技能を使って相手に説明したり、他者からの多様な情報を収集したり、情報を可視化・操作化したりしながら、他者とともに課題解決に向けて活動する場を設定する。

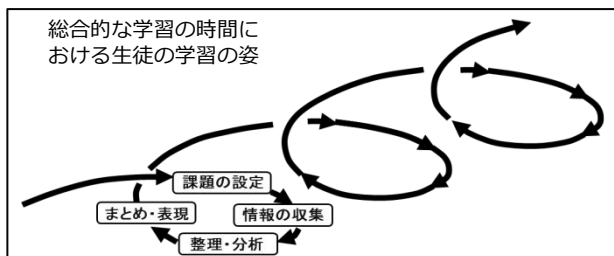
〈深い学びの視点〉

- ・探究的な学習（Point2を参照）の中で、「情報収集」や「整理・分析」「まとめ・表現」をする際に、各教科で身に付けた「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」の資質・能力をどのように活用するか、生徒が考える場面を設定する。

Point2 探究的な学習となる単元を構想しましょう。

総合的な学習の時間における学習では、「①課題の設定→②情報の収集→③整理・分析→④まとめ・表現」の探究のプロセスが示されており、図のように学習活動を発展的に繰り返していくことが大切です。

次に、それぞれのプロセスごとの学習活動のイメージを、地域の活性化について考えることを通して、働くことの意味や将来を展望することを例に紹介します。



①【課題の設定】

体験を伴う活動などを通して、課題を設定し課題意識をもつ

例) 地域について、ウェビングでイメージを広げ、友達と考えを比較した上で、地域の現状の調査に出かけ、町の産業の現状などに気付き、課題意識を高める。

③【整理・分析】

収集した情報を、整理したり分析したりして思考する

例) 課題解決につながる気付きをカードや付箋に書き出し、思考ツールを用いて整理し、課題についてグループでじっくりと分析する。

②【情報の収集】

必要な情報を取り出したり収集したりする

例) 地域の現状を探るために、行政機関や各業種の事業所へ体験やインタビューに出かけ、情報を収集する。

④【まとめ・表現】

気付きや発見、自分の考えなどをまとめ、判断し、表現する

例) 地域の活性化のために自分たちが参画してできることを考え、自分が地域とどのように向き合い、将来どのように生きていくのかをまとめ表現する。

こうした探究の過程は、①～④が順序よく繰り返されるわけではなく、順番が前後したり、一つの活動の中に複数のプロセスが一体化して同時に行われたりする場合もあります。

Point3 探究的な学習の過程を充実させましょう。

探究的な学習を充実させるために、次のことに配慮します。

○体験を伴う活動を探究的な学習の過程に適切に位置付ける。

- ・設定した探究課題に迫り、課題の解決につながるように、生徒の発達や興味関心に応じた体験を伴う活動を意図的・計画的に位置付けるようにする。

○自己を理解し、将来の生き方を考えるなどの学習活動を行う。

- ・職業や自己の将来に関する課題を扱う際には、生徒自らが職業や自己の将来にかかわる課題を設定し、自らの力で解決に取り組み、その結果として自己の生き方を真剣に考える学習活動を展開するようにする。

○探究的な学習の目的に応じた情報機器の活用を行う。

- ・情報を収集・整理・発信する活動においては、誰に対してどのような情報発信を行うことを目指しているのかを明確にし、コンピュータや情報通信ネットワークなどを主体的に選択し活用できるようにする。

○「考えるための技法」を活用する。

- ・他者と協働して課題を解決したり、言語により分析し、まとめ・表現したりする学習活動において、「比較する」「分類する」「関連付ける」などの処理方法を、様々な場面で具体的に使えるようにする。